







■リーダーズ・ナウ [在学生インタビュー]

▲(左から)「学窓座 | 1992年公演の様子/稽古場風景/合宿での一コマ











-大学を飛び出し、万博会場の大舞台で公演

●文化会演劇研究部「学窓座」 システム理工学部3年次生 西村 和祥 さん (大阪府 追手門学院大手前高等学校) 社会学部2年次生 荒川 優花 さん (広島県 ノートルダム清心高等学校)

多賀 水柚 さん (福岡県 九州産業大学付属九州高等学校)



文学部2年次生

2025年6月、大阪・関西万博の ステージで公演を行った演劇研究部 「学窓座」。リボーンチャレンジ出展 企業の最先端技術によって創り出さ れる「100年後の未来」をテーマに、 から舞台を作り上げた。部長の西 村さん、役者の多賀さん、そして脚 本を書きながら役者として舞台にも 立った荒川さんに、万博公演への思 いを聞いた。

## ●企業開発の未来技術を題材にした万博の舞台

「万博をつくるのは、関大だ。」をキャッチフレーズに、関西大 学では、大阪・関西万博の会場で数々のイベントを行っている。

大阪ヘルスケアパビリオンでは、中小・スタートアップ企業の 最先端技術などを発信する展示企画 [リボーンチャレンジ] が開催 されており、8月には関西大学が実施主体として出展する。関西大 学は、実施主体のうち唯一の教育機関として選定されており、「大 学×企業が生み出すイノベーションの可能性 | をテーマに、産学連 携で「100年後の未来」を描き出す企画に期待も高まっている。

今回、8月の展示に先立ち、「100年後の未来」をテーマに出展 企業が開発する技術によって創り出される世界を描いた演劇を披 露したのが、文化会演劇研究部の「学窓座」だ。公演は6月8日、 同パビリオン内のリボーンステージで行われた。

学窓座は1946年創立、現存する関西の学生劇団の中でも屈指の 歴史の長さを誇り、今春の新入生は81期だというから、その歴史 の片鱗がうかがえる。現在は3年次生と2年次生がそれぞれ6人在 籍しており、新入生の5人が仲間に加わった。

「関大には現在、『学園座』、『展覧劇場』、『万絵巻』、そして我が

部の、4つの学生演劇 団体があります。僕 たちはその中でも現 代劇、特に会話劇が 多いことが特徴で、 普段は3~4ヵ月に1



回のペースで公演を ●西村和祥さん ▲中高時代(左から3人目:西村さん) しています」と自己紹介してくれたのは、部長の西村さん。

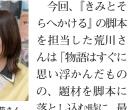
2024年10月に大学側からのオファーがあり、今回の万博公演 が決定した。普段の公演から役者として舞台に立っている多賀さ んは「入学した時から関大が万博を盛り上げていくという話は知っ ていましたが、まさか演劇部に声が掛かることがあるなんてとて も驚きました」と万博公演が決まった時のことを話す。

今回演出や脚本を担当し、役者として舞台にも立った荒川さん も「自分が熱意を持ってずっと続けてきたのが演劇。その演劇で 万博の舞台に立てるだなんて、こんな貴重な機会をいただけてと てもうれしかった と喜びを見せた。

## ●普段の公演とは異なる特殊舞台に四苦八苦

準備は短編4作のオリジナル脚本の執筆からスタートした。い つもと違うのは「宗教上の食事制約の共有|「抗菌・殺菌素材|「凍 結技術 | 「IL電池 | といった各企業の取り組みが題材であること。 企業担当者からの詳細な説明を受けて、脚本担当座員がプロット を考案、方向性を企業側と確認しながら脚本を完成させたのも今 までにはない経験だった。





●荒川優花さん 落とし込む時に、最

▲中高時代(写真中央: 荒川さん) 初は堅苦しい説明口調になってしまいました。でも観客に誤解な く伝わるようきちんと表現したいという思いもあり悩みました。 しかし企業の担当者から「皆さんの自由な発想でやってほしい」と の言葉を掛けてもらい、責任感を持ちながらも思うままに取り組 むことができたと話す。

普段は学内のホールなどで公演を行っているが、万博のステー ジは屋外ということにも頭を悩ませた。通常使用している照明な どは屋外では使用できない。また壁や屋根がなく外部からの音も 聞こえる状況だったため、声の届き方や反響などの予想ができず 不安だったという。

さらにステージを使えるのは本番当日のみという制限もあり、 舞台設営についても普段の公演のような進行スケジュール通りに はできなかった。「いつもの公演は1週間ぐらいホールを借りて、 最初の4日間で設営準備、2日間公演して、1日で片づけ、という スケジュール。でも今回は本番当日にすべて行う必要があったの で、舞台装置に凝り過ぎると準備が難しくなるし、悩みどころで した (西村さん)。普段の公演とは異なる制限も多い中、大学内で 万博のステージと同じような舞台サイズの場所を借りて、設営か ら撤収までを含めたリハーサルを行うなどの工夫もしたのだとか。 そして学窓座では毎公演前にオーディションを行っているが、

今回は特別に座員以外からの参加も受け入れた。新入生や他大学 の参加者たちと共に舞台に立つことは新しい風を感じる良い経験 になったようだ。

# ●心躍る「100年後の未来」への夢を描く

不安や懸念材料を数多く 抱えた中だったが、新しい 題材でこの大舞台に立った 高揚感とワクワクした気持 ちは、座員全員に共通する ものだったようだ。





「今の時代では非現実的 に思えるものがあふれてい ▲中高時代(最前列右端:多質さん)

るであろう100年後の未来。そんな心躍る未来を自分の演技で伝 えたい! と思って舞台に立ちました | (多賀さん)。 「企業の方々か ら最先端技術や研究について説明を聞いた時、そんな題材を演劇 で表現できることにワクワクしました。現実的なものも非現実的な ものも同じ舞台で表現できるのが芸術の良いところ。100年後の 未来はきっと今では考えられないようなことがいっぱいある、胸 が高鳴るような世界になっていてほしいなと思います (西村さん)。

万博会場という、いつもとは何もかもが違う大舞台に立って期 待に胸膨らむ「100年後の未来」を演劇で伝えた学窓座。今回の 舞台でひと回りもふた回りも成長した彼らにとって、この先ずっ と忘れることのない舞台となったに違いない。

### 「学窓座」万博公演:脚本内容概要-

#### ■『たこやき食べようや』

#### 【紹介企業】株式会社ゴエンジン 関西の魅力ある食文化をムスリム(イス ラム教徒)向けに紹介

【ストーリー】学校の放課後、中谷と小野 の会話劇。日本人ハスリハの友人・大西 について二人が話す中、教義の関係で外 食に不自由しているという話題に。実家 がたこやき屋の小野が宗教上の理由か らタコが食べられない友人のために目材 を変える工夫をする。身近な話題をきっ かけに、さまざまな宗教の人たちが一緒 こ食事を楽しめる社会を提案する。

#### 【紹介企業】株式会社KURFi 氷結晶の成長過程をコントロールする技術

で凍結に関する寒冷地での問題を解決する 【ストーリー】鬱と診断され自宅に引きこも るしょうたを友人のこうすけが釣りに誘う。 こうすけは、釣った魚に自身が開発した"細 胞を壊さず冷凍保存できるエキス"をかけ て持ち帰る。帰宅後、海水を入れた水槽に 凍った魚を入れると大きく跳ねて泳ぎ出 す。魚が息を吹き返したように、その水槽 の水を被ったしょうたも体調が回復する。 しょうたは鬱になる前にこうすけの研究所 でこのエキスの試薬に触れていた。

#### ■ 「きみとそらへかける」

【紹介企業】株式会社アイ・エレクトロライト 宇宙空間などの特殊な環境下でも耐久 性·安全性をもつ「IL(イオン液体)電池」 を開発

【ストーリー】宇宙空間での調査のため地 球を離れることになった研究者のソラ。 研究中の特殊な電池をはめ込んだペット 型ロボット「スカイ」を妹のウミに預け、 自分は対になる「マリン」を連れて行く 残されるさみしさから反発していたウミ が、「スカイ」とかかわる事で姉と同じよ うに宇宙へ行く夢を持つようになる。

# ■『扶養家族』

【紹介企業】株式会社ナノスパイク

表面がナノレベルの突起物で覆われ、) 体や環境に負荷をかけない新しい抗菌・ 殺菌素材「ナノスパイク」を紹介

【ストーリー】働かない妹を養っている兄 の元へ、妹に仕事を紹介するという手紙 が届く。不審に思いながら待ち合わせ場 所へ向かうと、一人の女性が待っていた。 彼女はナノスパイク技術で感染症を治 療中に、ボランティアで病院を訪れた妹 と知り合ったという。兄は自分が知らな い妹の姿に戸惑いを隠せない。

June, 2025 — No. 81 — KANSAI UNIVERSITY NEWS LETTER KANSAI UNIVERSITY NEWS LETTER — No. 81 — June, 2025